

# Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-8 3/4 Mar. 2007

## Thank God It's Friday (Oh My God It's Stormy Friday)

金曜日の夕方のことです。少しこの街の風俗を観察してみます。週末用の買い出しが思いがけず遅くなり夕闇の中を戻ってきましたが、いつもより早い時間ながら激しく雨が降り始めました。踏切で長々と待たされている間、周囲は雨に逃げまどう人の波です。気が付けば、マイクロカートを身にまとった（身をさらけ出した？）若い女性たちが濡れながらうろうろしています。これから夜のお出かけなのですね（にこにこ）。当然傘などさしていません。その脇をアノラックを着たカップルが通り過ぎます。お互いの体とピザハットの箱を大事そうに抱えています。何だか「神田川」の世界に生きるふたりみたいですが、彼らもこれからパーティなのでしょうね（ほのぼの）。TGIFは日本でもかつて「花金」とか言われていた「あれ」です。気が付けばどこかのパーティらしき場で酔っばらっているわけです。雨が降ろうが、寒かろうが、景気が良くなろうが、楽しめる年齢になったら必ず楽しむのですね。これだけは、「英国病」末期の時代も変わらないように思います。大人と子供の文化的境界がはっきりしているので、大人になった時（18歳かな？）には、弾けるように楽しむようです。そのかわり、大人は大人で一括りにして細かい年齢の分類は（明確には）ありません。で、翌日は老いも若きも二日酔いで午前中を寝て過ごしますから、土曜日の午前中に訪問するのはタブーなのです。それにしても、今夜は宵のうちから荒れてきました。やはり、March comes like a lion. でしょうか？



## 「赤いお鼻の日」

カレッジの国際センター掲示板にこんなボードが用意されています。3月16日は「赤いお鼻の日」だそうです。もともとアフリカの難民救援の募金運動として始まった Comic Relief 運動を支持するため、赤いプラスチックの鼻を付けて、思いっきりドレスアップしたり、仮装したりでパーティを行うことが多いようです。1985年と言いますから、例の Live Aid 以来の運動なのです。まだ続いているのですね。慈善運動ですが、やはりこちらの人たちは遊びと善行を結びつけるのがうまい。というか、何にでも理由をつけては遊びたがりますね。ところで、ティナにこの通信の

ことを話したら、英語版を作れと言われました。ううむ、この通信にはこちらで話題の「不都合な真実」というものもありますから、日本語のままでも差し上げて、お茶を濁しておきますか。

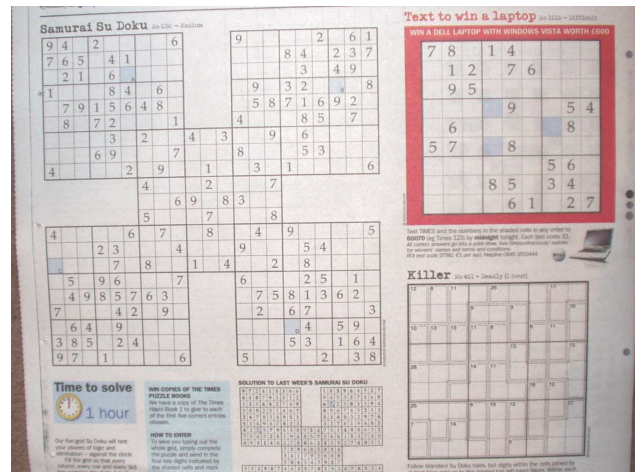
## T G I F 私の夕食

「ひとり」で「自炊」しながら「引率業務」を遂行する教員は「花金」の夜に何をしているのかをお伝えします。本日のメニューは *Avocado and Tuna marinated in Olive Oil*、*Pasta with Sausages and New Potatoes*、*Spicy Vegetable Salad* です。醤油と山葵がほしいところですが、それだと日本酒も欲しくなりますね。調理道具の不揃いのせいにしますが、作る量を間違えました。それも大幅に。しばらくは、苦しくて動けませんでした。このままだと、絶対に太って帰国することになります。ああ。



## SU-DOKU

こちらに来るで「数独」(こう書くんでしたか)というものをよく知りませんでした。こちらではどの高級新聞にも毎日載っています。これは土曜日の *The Times* に掲載されたものですが、左側のは「サムライ・ス・ドク」という凄いタイトルがついていて、かなり難しそうです。右側はラップトップコンピュータが景品になっています。こちらに来てから遊び方(遊ばれ方?)を英語の説明で知るといって情けない状態の日本人としては、こんなものを発明した「奴」が恨めしい。一度も解けません。それにしても、かつて「クロスワード・パズル」を日がな一日解くことを是としていた英国紳士も、今や金儲けにかなり忙しくなっていると思うのですが、それに加えてこんなにややこしいゲームに割く時間をどうやって作り出しているのでしょうか?例の『秘書の告白』に出る有能な秘書がいるのでしょうか?マニアックなものには、あっさり食いつくイギリス人気質なのでしょう。



## アカウントビリティ(再)

国際センターには、今年こんなパネルがお目見えしました。スタッフの名前とポジションが写真入りで紹介されています。他のセクションでも同じようなパネルが目立つところに置いてあります。これなら外部の人間にも明確に分かります。なるほどと感心していましたが、昼食時にティナに聞いた話では、このカレッジではさらにマネジメントを変えて「トップダウン運営」を徹底するそうです。ということで昼食当日、ピーター・ブラウン部長も一緒するはずが、新たな運営担当の上級職員の採用面接が長引いたとかでキャンセルされました。1つの上級職に19人が応募して来たそうです。去年は、校長秘書の募集に80余名が応募したとかで、どうもこのカレッジは「ライジング・サン状態」にあるようです。ちなみに、給与の体系は大きく3つに分かれているようで、上級職は「かなり良い」待遇だそうです。今や高等教育機関は、裕福でない生き残れないようで、日本もそうなりつつありますからね。今朝(日曜日)の新聞には、ハーバード大学からのローズ留学生がオックスフォード大学を「貧弱だ」と批判したという記事が載っています。寄付金規模が比較されていて、オックスフォードはハーバードの6分の一ほどで貧弱だからだ、いうことになっています。たったの6500億円ほどですけど。金があれば、必要な資産(良い経営陣・良い施設・良い教員)が買えるということらしいです。真実だけに複雑な気持ちです。

## 白馬

昨日は、ウェストベリーまで足を伸ばして、「神秘の」ホワイトホースを見てきました。ウィルトシャーには7頭ほどこのような「白馬」がいるそうで、「古代の神秘に出会える地域」という触れ込みです。しかし、ここまで行くことで、私が長年抱き続けた密かな憧憬が無惨に砕け散ってしまいました。何せ新しい。この形に直したのが1778年で、飽き足りずに1837年の改装し、現在はコンクリート型に石膏が流し込んであります。やはり、化粧美人は遠くから見るべきですね。(吉川)

